

令和4年度

航空宇宙生産技術人材育成・研究開発

プロジェクトに係る

外部評価委員会

評価結果＜概要版＞

令和4年11月

航空宇宙生産技術人材育成・研究開発プロジェクトに係る
外部評価委員会 委員名簿

(敬称略)

委員長：松島 紀佐 (日本航空宇宙学会 人材育成検討委員会委員)

委員：櫻井 浩己 (日本航空宇宙工業会 調査部部长)

石黒 透 (日本能率協会 中部事務所長)

佐々木 孝治 (中部経済連合会 産業振興担当部長)

河田 賢次 (岐阜県工業会 専務理事)

評 価 活 動

令和4年10月27日 評価資料に基づく事前評価 (書面)

11月8日 委員会開催

- ・航空宇宙生産技術開発センターおよび県からの概要説明・事業報告
- ・質疑応答
- ・評価結果審議

評価結果

1 プロジェクトの推進に関すること

項目	評価点
プロジェクトの体制等は適切か	4 優れている
産学金官連携の取り組みは十分か	4 優れている
実施スケジュール・実施状況は妥当か	4 優れている
予算配分・執行状況は妥当か	4 優れている
KPI 達成に向けた取り組みは十分か	4 優れている

評価対象期間である 2021 年 12 月から 2022 年 10 月は、航空業界に明るい兆しが見えてきた。一方で国際情勢や経済環境の大きな変化に見舞われたが、プロジェクト推進に関し航空宇宙生産技術開発センターの地域における存在感が格段に増し、前年からの進化が認められる。プロジェクトの体制・運用手法の大枠は良好に確立され、PDCA サイクルも適切に機能している。KPI を柔軟に見直し実情に即したものにしたことやプロジェクト推進会議への新規構成員加入などの展開もプラスに評価され、すべての項目で「優れている」となった。2022 年度は交付金支援期間の最終年度でもあることから、来年度から開始の自走期間に備えての準備も怠りないが、現状の活力を維持し自走するためには、国・地域による支援も望まれる。

その上で、個々の方策各論について、運営委員会等の開催頻度の適正化や、本プロジェクトで完結できる KPI に対する KAI の具体化等を検討すると良いとの指摘があった。

2 人材育成に関すること

項目	評価点
育成される人材は、産業界が求める人材像と合致するか	4 優れている
カリキュラム・実施体制は適切か	4 優れている
実施状況は十分か	4 優れている

社会人・学生(学部および院生)それぞれに対する多様な人材育成プログラムが本格稼働し、生産技術に関する学びの機会を広く提供できている。岐大と名大の相互乗り入れも順調で運営手法に関する PDCA サイクルも良好に機能して、受講生の人数も増加傾向である。特に、実習により受講生に体験させて自ら考えさせるプログラムを複数導入してあることは高く評価すべきで、総じて優れているとの評価となった。

一方で、受講生が得た知見が企業でどのように活用されているかの確認を数年にわたっ

て行うことを推奨する。また、刻々と変化する技術動向に対応するとともに、受講生の到達度を指標にした講義内容・教材の更なる改善が重要であり、取り組みを強化してゆくことを期待する。さらに今後は、生産に係る認証制度について学ぶ機会を提供できるよう検討いただきたい。

3 研究開発に関すること

項目	評価点
研究テーマは事業目的に沿ったものとなっているか	4 優れている
産学官連携を含めた実施体制は適切か	4 優れている
進捗・成果の状況は十分か	3 適切である

本事業の研究開発分野における最終目的はサイバー・フィジカル工場の実現による航空機の生産技術革新と生産性向上である。各研究テーマは4項目（情報通信技術・加工組付けロボット・AMR・先端加工技術）に分類して実施・管理されており事業目的に沿っている。各研究テーマの進捗状況報告検討会が大学・企業・県の三者間で定期的に行われ、適切にPDCAが機能し研究テーマがより良いものになっている。以上より研究テーマと実施体制は優れていると判断したが、研究テーマの将来性について現状の延長のみではなく世界的な外部環境変化を視野に入れて展望すべきとのコメントには留意すべきである。

研究の進捗や成果状況は各研究テーマでまちまちである。実装に到達しているもの、企業の担当者から近い将来の実用化を期待されているものも多くある。一方、進捗が芳しくないものもあるが、継続する価値のある研究であると判断できる。進捗が順調な研究においては、可能であれば国際的競争力や経済安全保障の観点も加えて進捗・成果報告を行うとともに国際航空宇宙展およびエアロマートなどでの外部へのアピールも行って頂きたい。

4 地域への展開に関すること

項目	評価点
センターで育成した人材の地域産業への定着の取り組みは適切か	4 優れている
センターで開発した技術の地域産業への普及の取り組みは適切か	4 優れている
サプライチェーン全体、他産業の生産性向上・競争力強化につながるか	3 適切である

センターによる航空科学技術の啓蒙活動が活発に行われ、社会実装ロードマップに沿って地域に寄り添う技術相談会・講習会も数多く開催されている。また、企業連合組織や県・

公設試との協力関係も構築できている。このような取り組みによりセンター発の高度な生産技術者の地元就職や先端的な研究成果の県内企業への導入が進みつつあり高い評価となった。

一方、地域におけるサプライチェーン全体、他産業の生産性向上・競争力強化への貢献に関しては、センターが本格稼働してから日が浅いこともあり、地道な取り組みはされているものの優れた成果がまだであることから「適切である」の評価となった。地域の航空機産業の発展的活躍に向けて、センター発の研究成果の実装に加えて個社の課題解決にも応じるような支援の拡大に期待する。

5 今後の取り組みに関すること

項目	評価点
センターの自立への取り組みは十分か	4 優れている
大学改革につながる取り組みになっているか	3 適切である
生産技術の人材育成と研究開発の拠点となるための取り組みは適切か	4 優れている

今後の取り組みに関し、センターの自立や生産技術拠点形成の2項目について人事や経営面での努力と地域と連携した研究開発・人材育成の現状の活動が高い評価につながった。

その上で更なる展開を望むため、産学金の対話により要望される研究開発課題の洗い出し、センターの資金獲得計画の不断の検証、イノベーション志向の人材育成などに取り組むことを期待する。

大学改革については、適切であると評価されたものの、広く社会が望む大学の本来の使命と本事業で達成されるべき改革との関係性について議論を深め、納得できる改革の実現を目指すべきとの意見が複数あった。

(以上)